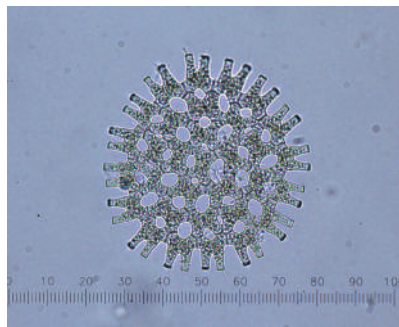


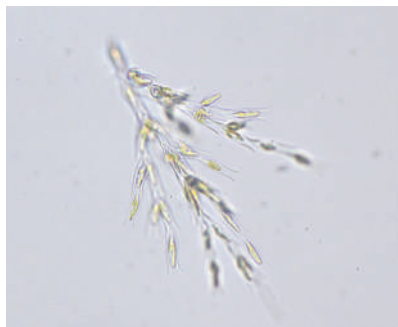
武蔵野の公園で見られる植物プランクトン

* μm (マイクロメートル)= $1/1000\text{mm}$ で人の目で見えるのは $100\mu\text{m}$ (0.1mm)までで、観察には顕微鏡が必要です。公園ではイベント時などに観察の機会を用意しています。



1.フタヅノクンショウモ

● 群体の大きさ: 約 $150\mu\text{m}$
通常は16個、32個、64個の細胞から丸い群体を作り、勲章のような形をしています。一細胞から二つの突起が出るのが特徴です。大量に発生すると、水を緑色に変えることもあります。



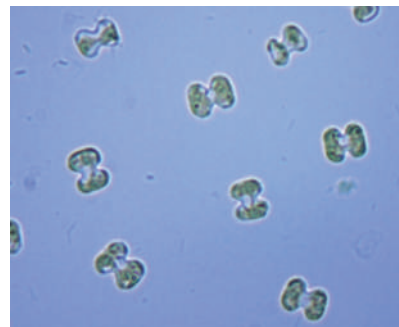
2.サヤツナギ

● 群体の大きさ: 約 $220\mu\text{m}$
各細胞は花びんのようなサヤの中に入っていて、木の枝のように集まるのでサヤツナギと呼ばれています。各細胞から鞭毛を伸ばし水流を作り移動します。冬から春に多く発生します。



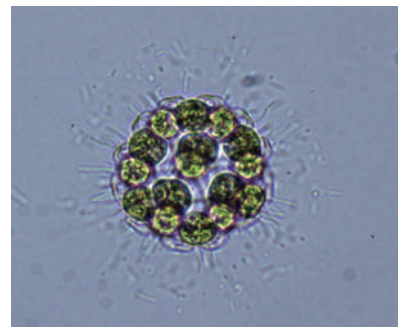
3.スタウラストルム

● 細胞の長さ: 約 $30\mu\text{m}$
細胞を上から見ると3本の突起があり、横からみると4本の突起があるように見えます。コスマリウムと同じく、鼓の形をしており、ツツミモとも呼ばれています。



4.コスマリウム

● 細胞の長さ: 約 $8\mu\text{m}$
細胞は横から見るとまん中がくぼんでいる形が鼓に似ているため、ツツミモとも呼ばれます。小型な種類で、大発生すると水を緑色に変える事もあります。



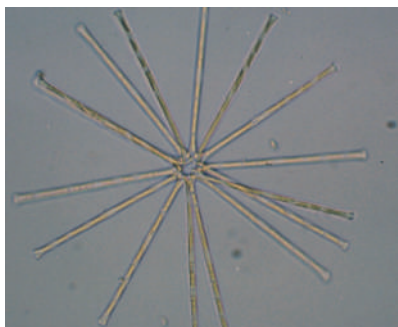
5.コエラストルム

● 群体の大きさ: 約 $60\mu\text{m}$
細胞は卵型か多角形で、スポンジボールのような群体を作ります。1群体の細胞数は16か32で構成されます。顕微鏡で見ると金平糖のような形に見えることもあります。



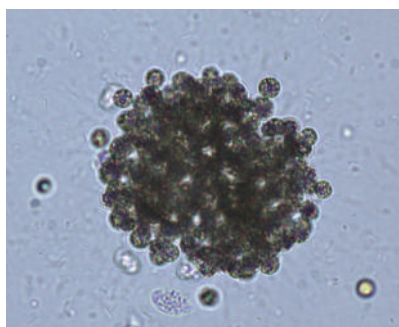
6.ハリケイソウ

● 細胞の長さ: 約 $150\mu\text{m}$
針のような形をしている細長いプランクトンです。横から見ると、転がりにくい長細い箱のような形をしていて、池や沼だけでなく川でもよく見られます。



7.ホシガタケイソウ

● 細胞の長さ: 約 $100\mu\text{m}$
細長い形をしたケイソウが普通4個か8個が集まって星のような形になるプランクトンです。ジグザグになることもあります。一つの細胞は棒状で両端が少し膨らみます。



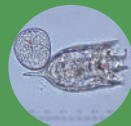
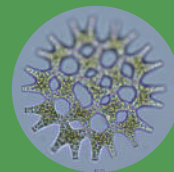
8.ミクロキスティス

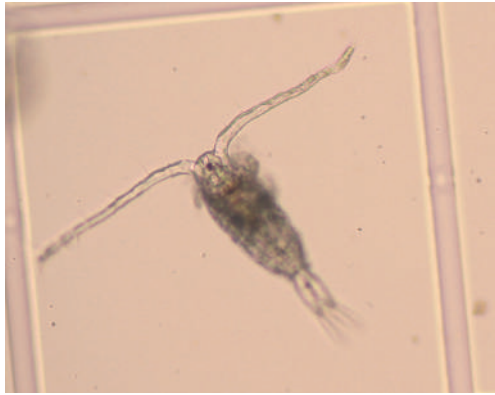
● 群体の大きさ: 約 $80\mu\text{m}$
細胞が密集した群体を作ります。細胞の中にガス胞があり、顕微鏡で見ると黒く見えます。増殖すると、水に緑色の粉をまいたような「アオコ現象」の原因になります。

プランクトンってどんな生きもの？

プランクトンは、泳ぐ力が弱く、水中や水面上に浮かんでいる生きもののことです。人の目では見えない小さな生きものから、海にただようクラゲのように大きなものまでいます。

大きく分けて2つの種類に分けられ、草や木のように光合成を行い栄養を作る植物プランクトン(図鑑表)、動物のように動きながら他の生きものを捕食する動物プランクトン(図鑑裏)に分けられています。





1. ヒゲナガケンミジンコ

● 大きさ：約1mm

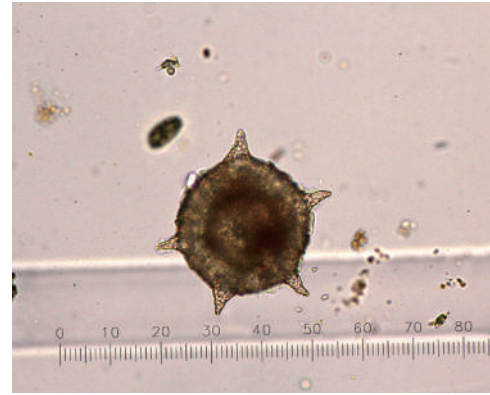
2の写真のノープリウスが成長した姿で体の長さと同じくらいの長い触角をもっています。普通のコケンミジンコとは違う仲間、エビに近い形をしています。



2. ノープリウス (甲殻類初期幼生の総称)

● 大きさ：約200μm

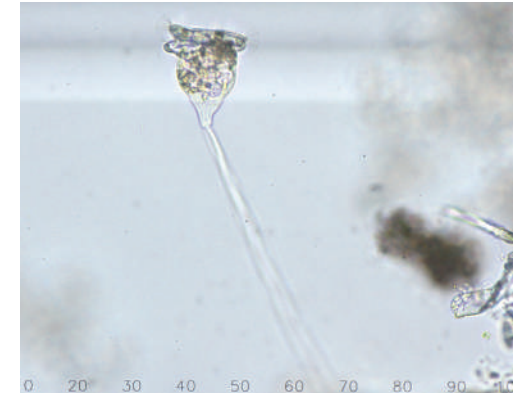
この写真はケンミジンコの幼生です。丸い身体に脚が生えたダニのような形をしています。脱皮を繰り返して徐々に大きくなりケンミジンコになっていきます。



3. トゲツボカムリ

● 大きさ：約120μm

砂粒や泥を集めて殻を作ります。中にアメーバに似た虫体が入っていて、偽足とよばれる足で動きます。殻の口を下向きに、水底や水草の表面をはい回ります。



4. ツリガネムシ

● 大きさ：約70μm

体から一本の柄がのび、釣鐘の形に見えることからツリガネムシと呼ばれます。長い柄はらせん状にのびたり縮んだりします。水質が悪くなるとよく見られます



6. カメノコウワムシ

● 大きさ：約150μm

体を覆うカラには「亀の甲羅」のような模様があり、この名前が付いています。カラの前には6本のトゲがあり、カラの後ろには1~2本のトゲがあります。



7. ウシロツノツボワムシ

● 大きさ：約170μm

ツボに似た形をしていることからツボワムシと呼ばれます。カラの後ろに内側に曲がった2本のトゲがあります。

武蔵の池のグリーンウォーター化について

武蔵の池では、池の水が緑色になるグリーンウォーター化現象が起り、透明度が低下しました。この時大量に発生していた植物プランクトンが、*Cosmarium regnesi* var. *tritum* というコスマリウムの1種です。



武蔵の池がグリーンウォーター化した際には、植物プランクトンの99%をコスマリウムが占めていることが分かりました。この調査の結果から、有害な「アオコ現象」とは異なり、悪臭を出したり、池の魚などに悪影響を及ぼすことはない分かりました。

参考文献：・やさしい日本の淡水プランクトン図解ハンドブック, 合同出版, 改訂版

・日本淡水藻図鑑, 内田老鶴圃

・日本淡水動物検索図説, 東海大学出版会, 第1版